

平成15年度学力向上フロンティアスクール研究中間報告書

都道府県名

千葉県

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	八千代市立萱田中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	4	0	13	25
生徒数	165	143	123	0	431	

II 研究の概要

1. 研究主題

生徒一人一人の意欲を引き出す「個に応じた指導法」の工夫改善
 ～ 生徒が生き生きと学習する学校を目指して ～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1年生・数学、2年生・数学、3年生・数学
 少人数クラス授業を展開していて、生徒一人一人の学習到達度状況がより細やかに把握でき、研究の成果を検証しやすいため。
- ・ 3年生・英語
 少人数クラス授業を展開していて、習熟度別に実態に応じた学習方法が工夫しやすいため。

(2) 年次ごとの研究

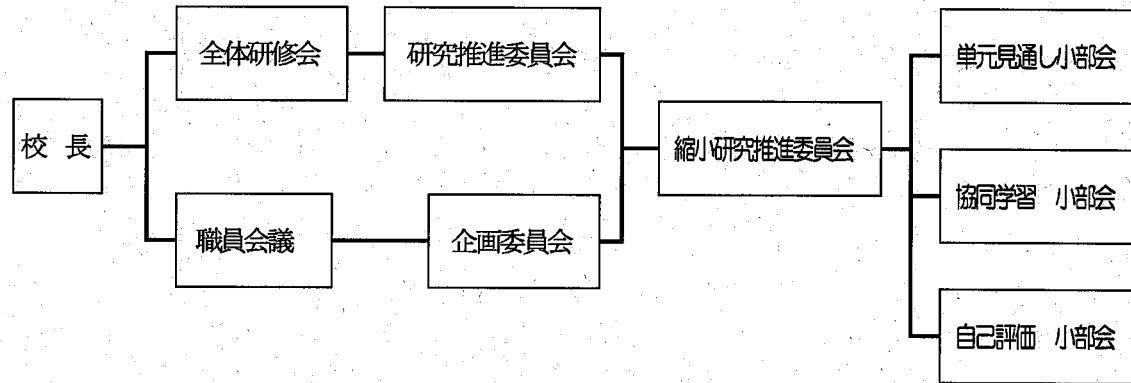
平成15年度	<p>○ テーマ</p> <p>「確かな学力」を培うために、次の3つの視点から数学科と英語科を中心にした研究を進める。</p> <p>① 主体的な学習姿勢を培う「単元見通し学習」の展開</p> <p>② 個の考えを尊重しつつ学びに活力を与える「協同学習」の実践</p> <p>③ 達成感・期待感を引き出す「自己評価」活動の展開</p>
--------	---

平成16年度	<p>○ テーマ</p> <p>「確かな学力」を培うために、「自主的・主体的な学習姿勢作り」を柱にししながら、次の3つの視点から全教科で授業過程の研究を行う。</p> <p>① 主体的な学習姿勢を培う「単元見通し学習」の展開</p> <p>② 個の考えを尊重しつつ学びに活力を与える「協同学習」の実践</p> <p>③ 達成感・期待感を引き出す「自己評価」活動の展開</p>
--------	---

(3) 研究推進体制

研究組織：3つのテーマ別の研究小部会を設け、職員全員がどれかに所属する形にする。

本小部会は、教科を越えたメンバーが集まってそれぞれの研究テーマに絞って研究できるようにということで設けたものである。各小部会の検討案は、全体研修会の場で確認されて全校取り組みに向けて統括されることになる。本組織は、全校単位の研究が教科横断的に推進することにもつながるものとする。



III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

「確かな学力」を身につけさせるために、本校としてどう取り組んでいけばよいか、本年度は研究方向を探ることがまず大きな課題であった。これまで、本校では「個の学び」を大切にすべく「学習過程に関する研究」を推進してきた経緯がある。その延長線上から、生徒の「自主的な学習姿勢」が培われるような方向で研究を進められればということになった。そして辿り着いたのが「単元見直し学習」、「協同学習」、「自己評価」という3つのテーマであった。

主体的な学習姿勢を培うために、まず「計画作り」の面から、そして学び合う仲間を求めて「受容的な学習集団作り」を進め、さらには意欲化を図れるよう「自己評価活動」といった一連の取り組みを一体的に支援していけるようにねらった。

「計画作り」の面からは、「単元見直し学習」の展開によって自主的に学習課題を自ら追い求められる姿を求めた。「単元見直し学習」では、単元の初めに単元全体を概観させる工夫をおこなっている。また、同時に本単元の学習に期待することとして生徒一人一人に自由に思いを書かせるようにしている。

「受容的な学習集団作り」の面からは、「協同学習」を積極的に展開することで仲間とお互いに助け合い、役に立っているという実感を持てるようにすれば、一人一人が自信を学習するようになるだろうという思いで取り組んでいる。

意欲化を図れるよう「自己評価活動」を工夫・展開するという点では、全校一律に「学習カード」をどの教科でも採用している。それには、毎時間「学習の目標」と授業後の「感想」が確認・記入できるような形式になっている。

今年度は、まだ実践の期間が浅く十分なデータは得られていないが、前述の「学習

カード」への取り組みは非常にスムーズであり、抵抗を示す生徒はほとんどいない。これは、これまでに既に取り組んできた数学・美術・保健体育の「学習カード」実践に負うところが大きいと思われる。一方、「単元見通し学習」の展開は本年度が初めてであるので、まだ研究の余地が多い。あるクラスでその効果について調査した結果があるので紹介したい。

1年社会科

H.16.1.実施

	単元見通し学習実施	単元見通し学習実施なし
楽しかった	29 %	21 %
やや楽しかった	44 %	42 %
あまり楽しくなかった	25 %	26 %
楽しくなかった	2 %	11 %

「単元見通し学習」を実施した単元の方が「楽しい」とあげている生徒が増えていることがうかがえる。

2. 今後の課題

本校の研究は、「単元見通し学習」、「協同学習」、「自己評価」の3つを柱に据えることができ、年度半ばからやっと研究らしい気運が出てきたという感を抱く。しかし、なによりも実績を増やしていくことが大きな課題である。「単元見通し学習」、「協同学習」は、その名称からしても耳慣れないもので、未知数部分が多く不安は隠せない。しかし、見方を変えれば、可能性を多分に含んでいるともいえる。研究的に実践を積んでいきたい。

「単元見通し学習」は、学習者のこれまで眠っていた部分に焦点をあてて積極的姿勢を引き出そうとするものである。機械的学習から脱して有意味学習を求め、一つ一つの学習事項を有機的に学べるようにしようとする方向を感じる。教師側の単元分析をはじめ、「協同学習」とのかねあいを視野に入れながら授業を組み立てることが効果をさらに上げることにつながるものと思われるので、さらに研究を深めたい。

「自己評価」の工夫も、根底に絶対評価（目標準拠評価）を教師側が確立していく努力を抜きには効果薄である。これも大きなエネルギーを要する。

日常の様々な教育活動を展開する中でこれだけの研究をこなしていかなければならないので、3つの柱そのものの研究を深めることはもちろんのこと、日々変わりゆく生徒の実態を正確に捉えながら教師の関わり方を敏感に探っていかなければならないと思っている。

以下の少人数授業に対して抱いている子どもの実態を示す資料等をみて、今後の協同学習研究の参考にしたい。

	少人数学習は、自分にとって良い	〃、自分にとって良いとは思えない
1 年 生	93 %	7 %
3年・数学	85 %	15 %
3年・英語	80 %	20 %

調査した2つの学年ともに大多数が少人数学習を良いとしている。その理由としてあげている主なものが「勉強がしやすい」「先生や友達に質問しやすい」等である。逆に良いとは思わなかった生徒の意見としては、「進み具合が自分に合わない」、「クラス分けが面倒くさい」などである。「確かな学力」を定着させるための大きな取り組みであるこの少人数授業をさらに生徒に受け入れられるよう工夫していきたい。

IV 学力把握のための学校としての取組

(1) 定期テスト

① 調査の目的

学校の教育計画に則って実施した授業によって、学力がいかに生徒に定着しているかを調査する目的で行う。

② 実施内容

国語、社会、数学、理科、英語、音楽、美術、保健体育、技術家庭について全校生徒を対象に行う。

③ 時期

平成15年 6月26日、 6月27日 (1学期末テスト)

平成15年10月23日 (2学期中間テスト)

平成15年11月25日、11月26日 (2学期末テスト)

平成16年 2月23日、 2月24日 (学年末テスト)

(2) 千葉県標準学力テスト

① 調査の目的

外部機関(千葉県)が作成した標準問題によってテストを実施し、生徒一人一人について観点別の客観的な学力調査結果を得、適切な指導に資する事を目的とする。

② 実施内容

国語、社会、数学、理科、英語、について1, 2年の全生徒を対象に行う。

③ 時期

平成15年 3月 4日

(3) 平成15年度中学校における教育課程実施状況調査

① 調査の目的

学習指導要領において身に付けることが求められている資質や能力が実際上生徒にどの程度身に付いているか、指導上の問題点は何かなどを明らかにして、今後の教育課程や学校における指導の改善に資することを目的とする。

②、実施内容

英語、社会、理科を各学年1クラスずつ実施する。

③ 時期

平成15年 2月17日

(4) 平成15年度 基礎学力調査

① 調査の目的

八千代市内児童・生徒の基礎学力を分析し、今後の指導に役立てるため。

② 実施内容

国語、数学を2年生全生徒と3年生抽出1クラスで実施

③ 時期

平成15年 1月22日

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1) 市内限定公開研究会（授業実践発表会）

① 日時

平成15年10月30日

② 場所

千葉県八千代市立萱田中学校

③ 対象

八千代市内中学校の数学、英語の教諭

④ 会の目的

本年度重点的に研究を進めた数学、英語の2教科に限定して授業を公開し、「確かな学力を培う」一研究として紹介普及し、さらに成果を問うことで次年度の本格的な全教科研究につなげることを目的とする。

(2) 市内定例市教研（授業実践報告会Ⅰ）

① 日時

平成16年 1月21日

② 場所

千葉県八千代市立萱田中学校

③ 対象

八千代市内中学校の社会科の教諭

④ 会の目的

市内各校の特徴ある授業実践を紹介し合って、授業方法を学び合うことを目的とする。

—本校社会科授業実践（1年社会科）を紹介する。

本校の研究の柱、「単元見通し学習」、「協同学習」、「自己評価」の3つの実

践事例を紹介し、多大な関心を得た。

(3) 市内定例市教研（授業実践報告会）－数学科でも実施の予定

① 日時

平成16年 2月18日
.....

(4) HP

平成15・16年文部科学省指定学力向上フロンティアスクール授業実践限定公開研究会のご案内

平成15年10月30日（木）

アドレス↓

<http://www.yachiyo.ed.jp/jkayada/kenkyu/kenkyukoukai.html>

(5) 研究紀要作成

学力向上フロンティアスクール授業実践限定公開研

平成15・16年文部科学省指定

研究紀要

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックする。

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

学校住所 千葉県八千代市ゆりのき台
7-8-1

学校電話番号 047-485-6640

FAX番号 047-485-6432

メールアドレス jkayada@yachiyo.ed.jp